

## ◇審判上の留意点◇

- 1 競技は2024年度（公財）日本バレーボール協会6人制競技規則および申し合わせ事項による。  
リベロプレーヤーは試合毎に2名まで登録することができ、別紙に定めた宮城県中体連の取り扱いとする。
- 2 「給水のためのタイムアウト（WTO）」を採用する場合は、宮城県中学校体育連盟バレーボール専門部が発行した「『給水のためのタイムアウト』の取り扱いについて」（別紙）に準ずる。
- 3 プロトコール制を採用する。
  - ①トスは各コートの記録席の前で行う。
  - ②トス終了後、チームキャプテンと監督は記録用紙にサインを済ませる。
- 4 監督は試合中、ベンチの記録席に一番近いところに位置しなければならない。
- 5 タイムアウトは、監督が~~ベンチから立ち上がって、コールしながら、~~ハンド・シグナルを明確に示して要求すること。また、競技者交代についてはクイック・サブスティチューション・システムを採用する。
- 6 試合中、監督だけが試合を妨げたり遅れさせたりしない限り、自分のチームの前のフリーゾーン（ウォームアップ・エリアまで）で立ち上がったり、歩いてコート上の選手に指示することができる。但し、ラリー中は観衆の妨げとならないようにベンチに座ること。
- 7 ワンボールシステムで試合を行うので、デッドになったボールは速やかに相手コートの選手に渡すこと。
- 8 ゲーム中のワイピングは、コート上の6人が速やかに行うものとする。ただし、各チーム2名までワイパーが入って拭くことも認める。その2名が登録メンバーの場合はベンチに、登録メンバー以外ならベンチの両わきに待機すること。
- 9 ゲーム中、ボールの交換を要求する場合、選手が副審あるいは主審に申し出る。
- 10 **登録選手の人数が少なくコートチェンジの際にチームの道具を運ぶことが困難な場合、試合に出ている選手3人までは、コートチェンジの動作をせずに、チームの道具を運ぶことを許可する。**
- 11 試合終了後は両チームの選手全員がエンドラインに整列して拍手をする。拍手後、両チームのチームキャプテンは、記録用紙に試合終了確認のサインをする。
- 12 医療を目的としたサポーターやニーガードに規制はないが、腰に帯状に巻くサポーター類は、明らかにユニフォームと色が違う場合にはユニフォームの下に着用する。
- 13 審判の判定に関しての度重なるアピールは、警告の対象である。  
選手はもちろんであるが、ベンチ役員の言動についても特に注意すること。
- 14 非スポーツマン的行為として次のような場合も警告の対象である。
  - ・相手チームに対して、そのミスをあざけ笑うような態度。
  - ・相手チームに面しながら手をたたいて自チームの成功を喜ぶような態度やガッツポーズなどをして相手を見下したり、にらみ合ったり失礼な言動をとる態度。
  - ・サーブを打つ際に「このやろー」等の不穏当な言葉をはくこと。
- 15 監督及びコーチは、ベンチでの言動に気を付け、不適切な発言等しないこと。なお、審判員が確認できたときには、ルールにのっとり制裁する。